



KMU 金沢医科大学氷見市民病院

| 広 | 報 | 誌 |

かけはし

氷見

KAKEHASHI



患者さんと病院と
地域をつなぐ広報誌

KANAZAWA MEDICAL UNIVERSITY
HIMI MUNICIPAL HOSPITAL

TOPICS ● トピックス

第12回 地域医療懇談会

田園風景(砺波市頼成新)

CONTENTS ● もくじ

TOPICS	第12回 地域医療懇談会	P.01
特集	外来患者さんの満足度調査	P.02
	横山先生の診察室から	P.03
	診療コラム	P.04
	病院★ニュース	P.05
	病院からのお知らせ掲示板	P.06
	まちかど情報	P.07

病院の理念

私たちは「生命の畏敬」を医療活動の原点として
次のような病院を目指します。

- 医療人としての研鑽に励み、患者さん中心の医療を実践します。
- 住民の健康と生命を守る中核病院として、安全で質の高い医療を提供します。
- 地域の医療機関と協力し、地域の医療福祉の向上に貢献します。
- 将来の地域医療の担い手となる有能な医療人を育成します。



第12回

金沢医科大学氷見市民病院
地域医療懇談会

令和元年10月5日(土)午後6時から、第12回金沢医科大学氷見市民病院地域医療懇談会が、ホテルニューオータニ高岡にて開催されました。この会は、県内開業医の先生方や医



療・介護施設関係の方々との連携を深めることを目的に毎年開催しております今年で12回目となります。今回は富山県内、七尾市から医科、歯科の院長先生や施設関係者の方など38名

にご出席いただきました。また、当院からは松本忠美最高経営責任者をはじめ梅博久病院長、診療科長など46名が出席しました。

懇談会では、はじめに松本最高経営責任者から開会挨拶があり、続いて梅病院長よりこの一年間の当院の実績、行事等の報告と、病院の役職者、新たに着任した医師の紹介がありました。

次に、副院長・循環器内科福田昭宏教授を座長に「診療紹介」が行われ、最新の治療法や治療の実際として事例をあげて紹介されました。

第1講演は、副院長・呼吸器内科井口晶晴教授から「当院における誤嚥性肺炎の現状」と題して講演があり、誤

嚥性肺炎は顕性誤嚥ばかりではなく不顕性誤嚥でも起こる場合があるとの報告がなされました。院内での嚥下の食事訓練や評価、栄養面などの取り組みについて報告されました。また、嚥下内視鏡検査

(VE)や透視下で評価を行う方法も説明されました。また、高齢者の栄養面のフレイルへの様々な要因についても説明がありました。

続いて第2講演は、整形外科診療科長 横山光輝教授から「Smart & Speed」整形外科は4月より新体制となりました」と題して講演があり、4月から取り入れた新しい四つの治療法①手指変形症に対する治療と手術について、②デュプイトレオン拘縮に対する注射療法について、③脊椎圧迫骨折に対する経皮的椎体



形成術(BKP)について、④さまざまな関節に対する人工関節手術について報告がなされました。特に「ヘバーデン結節」

「ブシャール結節」「母指CM関節症」についての治療、手術などについて詳しく説明されました。

懇談会後会場を変えて懇親会が開催されました。初めに梅病院長の開会挨拶があり、次に病院開設者の林正之氷見市長からご挨拶をいただきました。その後、氷見市医師会高木義則会長のご発声で乾杯が行われました。

懇親会は終始和やかに出席された方々の親睦が深まり、最後に廣瀬信雄副院長・事務部長の閉会の挨拶により盛会に終了となりました。

今後も氷見市の中核病院として各医療機関や施設の皆様との連携を深めながら、地域医療に貢献していきたいと思っております。

当院では、毎年来院される患者さんから直接アンケート形式でご意見をお伺いし、結果を参考に外来診療の機能向上を図るため、外来患者満足度調査を実施しています。

今年度は、令和元年7月8日(月)、7月10日(水)の2日間行いました。

期間中のアンケート配布枚数は409枚、回収枚数は266枚(回収率65%)でした。

調査結果から、今後病院に望むことでは「待ち時間の解消」が最も多く、続いて「専門医療の充実」を望む声が高いことが分かりました。

今回の満足度調査結果を踏まえて、診療システム等の改善対策を検討しながら「より良い安全で快適な診療」を目指して病院の診療サービスを向上に努めていきたいと考えています。

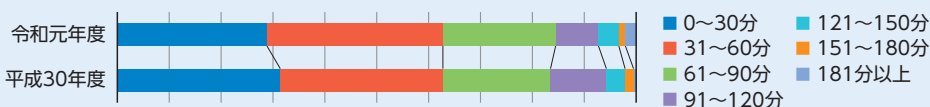
外来患者さんの満足度調査 令和元年度の調査結果を報告します

令和元年度 外来患者満足度調査結果をお知らせします

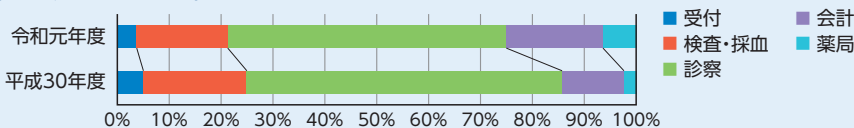
令和元年7月8日(月)、10日(水)に行いました、外来患者満足度調査結果は以下のようになりました。

アンケートにご協力いただきました皆様には、心より感謝申し上げます。

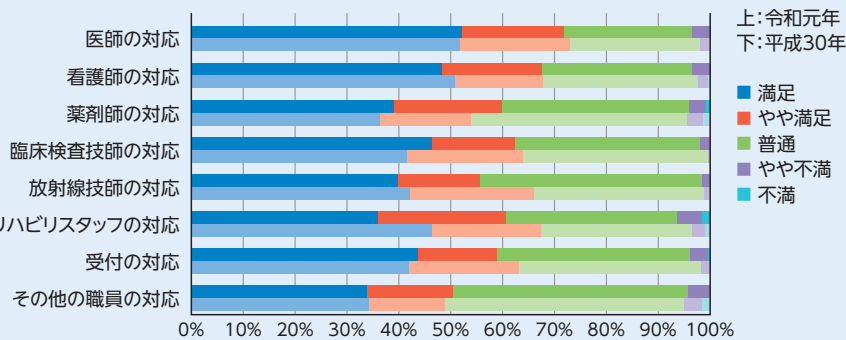
待ち時間 (受付から診察を受けるまで)



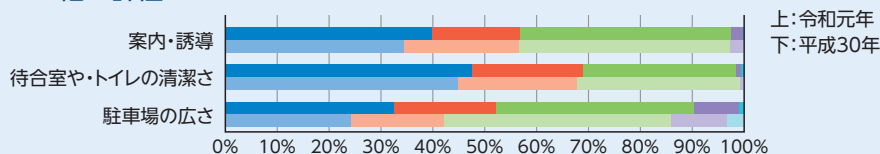
待ち時間が長いと感じた部署



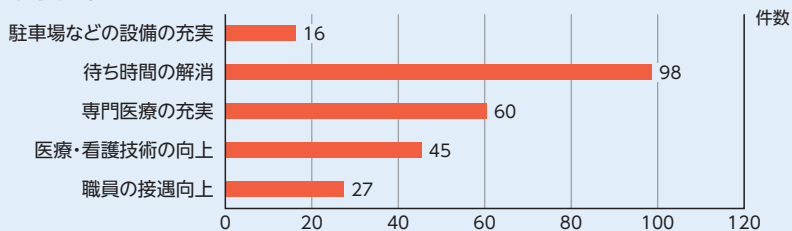
職種別の対応



その他の評価



今後当院へ望むこと





ランニングドクター
横山先生の
診察室から

整形外科 臨床教授

横山
YOKOYAMA
MITSUTERU
光輝

秋 も深まり、今年もランニングやマラソンの季節がやってまいりました。

走っているときに足の裏、膝、太ももなど痛くなってしまう方も多くなってきたことを経験された方も多いのではないのでしょうか。整

形外科医として、痛みを少なくしてランニングやマラソンをするアドバイスを述べたいと思います。

足底や足の指の痛みでお困りの方は、とにかくランニングシューズが自分に合っているか検討するのがよいと思います。サイズに遊びがないか、横幅は合っているか、そして、なにより足の土踏まずの形がシューズに合っているかです。走っていると疲れにより土踏まずが下がってきて扁平足になってきます。すると、足底腱膜という足の裏にある膜が突っ張るため、かかとの痛みの原因となります。疲れにくい足にするには土踏まずの高さの維持は大切です。シューズの中に入れる既製品のインソールはスポーツ店で販売されていますが、なかなかフィットしないようなら、自分の足裏に合わせたインソールを作るのを勧めます。インソールの工夫で、約2年間悩んだ足底部の痛みから解放され、

現在私は絶好調です。

長距離を走る前にCOX2阻害薬(セレコックス)という消炎鎮痛剤という痛み止めを内服するのは膝痛を抑えるのに適しています。COX2阻害薬は軟骨の炎症を抑えるため、走っているときに膝の炎症が起きにくく、ランニング時の膝痛を抑えます。

次にいざ走り出してから距離も長くなってくると、太ももやふらはぎが張ってきたり、痛くなってきました。いわゆる筋肉痛です。マラソンでは25〜30kmくらいから様々な筋肉が悲鳴をあげて痛くなってきますが、その際には予防的に20km程度で通常の痛み止め(ロキソニンなど)の内服が有効です。内服薬は効果が出るまで30〜40分くらいかかりますので、事前投与が有効なのです。

日中も涼しくなりランニングシーズン到来です。さあ、みなさん外へ飛び出しましょう!

横山 光輝 ★ 略歴



【略歴】

- ◎平成 2年 金沢大学医学部医学科卒業
- ◎平成 4年 浅ノ川総合病院 整形外科
- ◎平成 5年 富山県立中央病院 整形外科
- ◎平成 7年 市立敦賀病院 整形外科
- ◎平成 8年 金沢大学医学部 整形外科
- ◎平成 11年 富山県立中央病院 整形外科医長
- ◎平成 17年 金沢医科大学 整形外科講師
- ◎平成 21年 NTT 西日本金沢病院 整形外科部長
- ◎平成 26年 恵寿金沢病院 整形外科部長
- ◎平成 31年 4月～
金沢医科大学氷見市民病院 整形外科 科長(臨床教授)

【資格】

- ◎日本整形外科学会認定 整形外科専門医
- ◎日本体育協会認定 スポーツドクター
- ◎日本整形外科学会認定 リウマチ医
- ◎日本手外科学会認定 手外科専門医
- ◎日本整形外科学会認定 運動器リハビリテーション医

診療コラム

摂食・嚥下障害看護認定看護師

奥村 祐耶

私は2019年に認定看護師の資格を取得し、現在は脳外科・内科の混合病棟の4階西病棟に勤務し、摂食・嚥下障害を有する患者さんの嚥下(飲み込み)の評価や食事の介助に取り組んでいます。

「最近お世帯が多くなった」
「箸やスプーンが使いにくい」「体が傾いてごはんが食べにくい」「飲み込むのに疲れるから食事が進まない」「入れ歯が合わなかったり、虫歯で口が痛くて食べることができない…中にはダイエット中だから食べられなくてつらい人もいるかもしれません。」

このような、食べることに関する障害を摂食・嚥下障

害といえます。摂食・嚥下障害があると、食事に苦勞が付きまとうため、食べる楽しみが減ってしまいます。それだけではなく、そのまま放っておくと肺炎や窒息などの命を脅かす病気を招くこともあります。摂食・嚥下障害看護認定看護師は、このような食べることに関連した問題を持つ方々に対して、食事を安全に続けていけるように多職種とともに支援していくことが役割です。

食という字は「人を良くする」と書きます。私個人は「人生を良くすること」と解釈しています。患者さんにとって食べることが単に栄養補給でなく、患者さん自身の幸せ、ご家族と一緒に過ごして生きる喜びにも繋がっていると考えています。

今後は地域の方々からの嚥下に関する相談や、施設等への出前講座、誤嚥を予防するための口の体操の指導などに取り組んでいきたいと思っております。食べることに不安をお持ちの方はぜひご相談ください。



第11回 広げようブルーサークル in ひみ健康講座

■日程 令和元年11月2日(土)

当院6階多目的ホールにおいて「広げようブルーサークルinひみ 健康講座」を開催しました。この健康講座は、WHOが定める11月14日の「世界糖尿病デー」に合わせ、当院の糖尿病委員会が氷見市医師会、氷見市健康課と共同で開催しており、今回は約65名の参加をいただきました。

健康講座では、健康講座による「氷見市の糖尿病予防の取り組みについて」と題し、氷見市におけるメタボリック症候群や糖尿病の有病率の現状について説明され、糖尿病対策として生活習慣病予防知識の普及・啓発、健康なんでも相談、特定保健指導の実施を紹介されました。次に、中西理学療法士、廣瀬理学療法士による講義があり、加齢に伴う筋肉減少による病気や転倒リスクに対し有酸素運動と筋トトレの継続が推奨され、参加者で実際に運動をしました。その後、山本管理栄養士によるクイズがあり、炭水化物の働きや血糖値の上昇・食事回数について楽しく学びました。最後に、当院内分泌・代謝科伊藤教授による「糖尿病の基本について」と題した特別講演があり、「糖尿病三大合併症として「網膜症・腎症・神経障害」についてわかりやすく講義されました。講演後には、参加者から活発な質問があり、先生からのアドバイスを受け満足されている様子で、「糖尿病の怖さを改めて理解し、食事療法と運動を継続して頑張りたい」などの感想が寄せられました。

今後市民の方が、糖尿病における理解を深め合併症を防ぐことができるような健康講座を目指していきたいと考えています。



ヘルシークッキング教室

■日程 令和元年10月19日(土)

創作工房ひみにて、ヘルシークッキング教室を開催しました。

このクッキング教室は糖尿病委員会を中心に毎年開催されており、参加者の方々から大変ご好評をいただいております。

今回は、内分泌・代謝科の高木晋医師より「糖尿病に配慮した間食について」の講演が行われ、糖尿病に関する知識を深めました。調理実習では、鮭ときのこのトマト煮や、ところんを使ったフルーツポンチなど4品を揃えた「腸内フローラを整える」快腸ワンプレートランチを作りしました。血糖値の上昇を緩やかにするといわれている食物繊維を気軽に摂れる方法などを学びながら、楽しく調理を行いました。

参加者の中からは、「大変勉強になりました」「先生活の話、参考になりました」「アイデアいっぱいお料理、是非家でも作ってみたいと思います」などの感想が聞かれました。

今後も地域の方々と交流を深めながら、楽しく学ぶ機会をつくっていかれたらと思っています。



第7回 腎不全患者家族研修会

■日程 令和元年11月10日(日)

当院6階多目的ホールにて『令和の時代、自分の目標に向かって進もう』をテーマに第7回腎不全患者家族研修会を開催しました。この会は慢性腎不全患者だけでなく、その家族にも病気を理解してもらい、また医療スタッフとの交流を通じて家庭での療養に役立つような学びの場になって欲しいという思いから血液浄化センターの看護師が中心となって開催されています。大串医師(腎臓専門医/透析専門医)からは透析患者に対する「ドライウエイトについて」と題して、合併症を予防する目標体重でありケアプランを担当医と相談しながら調節することの重要性が説明されました。高坂看護師(緩和ケア認定看護師)の講演「はじめよう人生会議」自分らしく人生を生きるために」では、もしばなゲームについて積極的な質問も聞かれました。また、長谷管理栄養士、守理学療法士と前田理学療法士からは災害時の備えについて具体的な対策例が示され、災害時の栄養管理・備蓄食のローリングストックのすすめ、エコノミークラス症候群予防のためのヒラメ筋をはじめとする脚力の運動のすすめなどについて学びました。当日は38家族55名が参加し、治療食の試食なども行い慢性腎不全の治療に対して理解を深めました。



病院からのお知らせ掲示板



● インフルエンザワクチン接種

■ 実施開始日

小児 令和元年10月16日～ ※要予約
一般 令和元年11月1日～

■ 助成期間(氷見市)

令和元年11月1日～12月25日

■ 料 金

一般(65歳以上)	1,500円
一般(65歳未満)	4,500円
小児 1回目	4,500円
2回目	3,500円

● 肺炎球菌ワクチン接種

随時受付を行っております。

■ 受付時間

月曜～金曜 午前8時30分～11時、
午後1時～3時30分

■ 助成対象

令和元年度対象者は氷見市役所よりハガキが配布されています。来院時持参してください。

■ 料 金

助成対象者	3,000円
助成対象者以外	7,800円
2回目以降	11,000円

※2回目以降はハガキが配布されていても助成対象とはなりませんのでご注意ください。
※助成対象者は本年度令和2年3月31日を過ぎますと、助成対象者から除外されます。

● 消費税増税について

令和元年10月1日から消費税率の引き上げに伴い、一部の診療報酬が改訂されましたので、ご理解の程、よろしくお願いたします。尚、ご不明な点等ございましたら遠慮なく総合受付までお問い合わせください。

年末年始休診のお知らせ

12月29日(日)～1月3日(金)までの6日間は外来診療を休診します。

急患の方は救急外来を受診してください。また、受診の際は必ず健康保険証をご持参ください。

なお、休日・夜間の救急外来は、通常の外来診療とは異なり、すべての診療科の専門医が常駐しているわけではありません。

緊急を要しない場合は通常の診療時間に専門の診療科を受診いただけますよう、ご理解・ご協力をお願いいたします。



病院運営の基本方針

1. 患者さん中心の病院運営を行います。
2. 安全で信頼される医療の提供に最善を尽くします。
3. 患者さん・ご家族への「説明と同意」を徹底します。
4. 高度医療、質の高いチーム医療を推進します。
5. 地域の中核医療機関として地域医療連携・支援を推進します。
6. 良医の育成と医療人の教育・研修を推進します。
7. 働き甲斐のある健全で活力ある病院づくりに努めます。

患者さんの権利

当院は医療の中心は患者さんであると認識し、患者さんには次のような権利があることを宣言します。

- 安全で良質な医療を公平に受けることができます。
- 病気や治療内容について、分かりやすい言葉で説明を受け、ご自分の希望や意見を述べるができます。
- ご自分の意思で治療方法や医療機関を選択することができます。
- 診療記録の開示を求めることができます。
- 他の医療機関に受診することを希望されるときは、必要な情報提供を受けることができます。
- プライバシーは尊重され、個人情報は厳重に保護されます。
- 臨床研究に関して十分な説明を受けたうえで、その研究に参加するかどうかご自分の意思で決定できます。また、いつでも参加を取り消すことができます。
- 治療に関する自己決定の参考にしていただくため、セカンドオピニオンを受けることができます。

患者さんへのお願い

当院は、地域の中核病院としての社会的使命を果たすため、様々な医療を提供しています。患者さんには、次のことをご理解いただき適切な医療を行うためご協力くださいますようお願いいたします。

- 健康状態、その他必要なことを可能な限り正確にお話してください。
- 説明を受けてもよく理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 治療を受ける場合は、医療スタッフの指示に基づき療養してください。
- 病院のルールを守り、他の患者さんの迷惑にならないようご配慮ください。
- 教育病院として、医師、医学生、看護学生、医療専門職の学生、救急救命士などの臨床実習・研修教育を行っております。厳重な指導のもとに実施していますので、ご理解とご協力をお願いします。

まちかど情報

病院1F売店 GREEN LEAVES MALL

病院での生活を考え、 本当に必要なものが揃うショップ

2011年9月に病院の新築移転に伴い開店し、今年で9年目を迎えることができました。

当店は昭和48年創業の日本で唯一の大人用紙おむつ専門メーカー（株）光洋（本社：横浜市）が運営しており、スタッフのエプロンを見て患者さんから、よくお声がけ頂く事があります。



街のコンビニでは食品・日用雑貨を中心に扱っていますが、当店では患者さんやご家族、病院の職員の方々のために、一般的な商品を基本に、紙おむつやリハビリシューズ、包帯やガーゼなどの衛生材料、入院時に必要な肌着類等、病院の特徴にあわせた品揃えを行っています。

また、地元のお店の商品も多く扱っており、「俊ちゃん」のサンドイッチやパン、「さわや食品」の昆布パン、地元食材を使った「マコ弁」のお弁当など、お客様から「病院に来たついでに買い物できて便利やちゃ」とご好評頂いております。最近では挽きたて淹れたてコーヒー（1杯100円）も販売しています。病院へ来た際は、ぜひお気軽にお立ち寄り下さい。

●営業時間【年中無休】

平日、土曜日、日・祝日 7:30～20:00

年末年始 12/29、12/30、1/2、1/3 8:00～17:00

12/31、1/1 9:00～15:00

表紙について

砺波平野は、昔からたいへん米作りの盛んな地域です。

先人は、庄川の治水に随分苦労しながら開拓を進め、江戸時代には穀倉地帯として加賀百万石を支えてきました。

これからも感謝の気持ちを忘れず、お米をいただきます。

編集後記

市内の木々も紅葉や落葉が進み、朝夕の冷え込みが辛い季節になりました。ニュースでは台風による深刻な爪痕が報道され、避難場所の確認や災害グッズの備蓄など、日頃から確認したり話題にする必要性を感じています。そんな秋の日本列島を熱くする話題としてラグビーワールドカップ2019が大変盛り上がりしました。古くは「one for all, all for one:一人はみんなのために、みんなは一人のために」と言いましたが、今年は「one team」が合い言葉となりました。国籍や文化が違って日本代表として一致団結し懸命にプレイする姿に感動しました。氷見市民病院でも多くの職種が「one team」で日々の診療に取り組んでいます。

かけし秋号編集委員 腎臓内科 齋藤 淳史

■広報誌「かけし 氷見」の由来

広報誌が患者さんと病院、地域と病院をつなぐ「かけし」となることを願って命名されました。